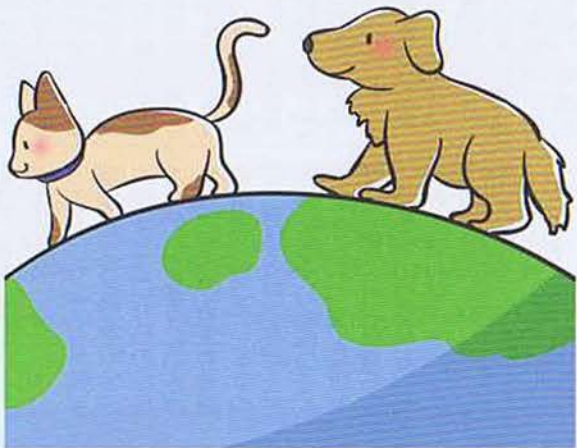


犬と猫の 血液型と 輸血

湘南獣医師会 塩谷 香織



ドナーの条件「猫」

猫の場合、様々な要因により(徹底した感染症予防が難しい、無麻酔での頸静脈採血が難しいなど)、院外でドナーを探すのは難しいと思われる。その為、実際は院内ドナーや患者の同居猫から血液を分けてもらう事が多いです。

ご存知ですか? 犬や猫の血液のこと

犬と猫にも血液型があるのをご存知ですか? ヒトの血液型はA B O 式、Rh式が一般的です。犬では国際的に犬赤血球抗原(DEA)による血液型分類が知られています。この中でDEA 1.1は抗原性が最も高く、輸血時に特に問題となる為、輸血前の血液型検査ではこのDEA 1.1が陽性か陰性かを調べ血液型としています。日本ではDEA 1.1陽性の犬は約60~80%と言われています。

猫はA B 式血液型により分類され、A型、B型、A B型の3種類からなります。日本ではA型80~95%、B型5~20%、A B型はごく僅かと言われていますが、品種により大きな差があるようです。

犬や猫の 輸血について

犬猫の血液型は通常の血液検査で調べるとは殆どありませんが、輸血を実施する場合は

事前に検査を行いいます。犬猫でも、様々な原因による貧血、救急処置として、手術で大量出血が予測される場合、薬剤の治療効果が出るまでの手段として、輸血を行う事があります。しかし、犬猫では人のような血液バンクはありません。薬のように製薬会社から買うこともできません。では輸血が必要になった場合、どうやって血液を手に入れるのでしょうか?

ドナーのこと

輸血が必要になった場合、何らかの方法で供動物(ドナー)を探します。動物病院で飼育している動物がいればその動物(院内ドナー)の血液を使用する事があります。他には、一般家庭で飼育されている動物に供血ボランティアとして登録してもらい(院外ドナー)、その血液を分けてもらい輸血治療を行っています。それでも輸血治療に十分な血液を確保している

動物病院は非常に少なく、血液が無いために治療できない場合もあります。

ではどんな子がドナーになれるのでしょうか? 以下に一般的なドナーの条件をお示しします(施設により多少の違いがあります)。

ドナーの条件「犬」

- ・年齢: 1~8歳程度
- ・体重: 大型犬(25kg以上)が望ましい
- ・過去に輸血を受けた事がない
- ・前回の供血から3ヶ月以上経過している
- ・フィリア感染がない
- ・狂犬病予防注射、混合ワクチンを接種している
- ・妊娠していない
- ・一般的な健康状態に問題がない
- ・無麻酔で頸静脈から採血可能



ボランティア登録にご協力ください

血液は人工的に作る事ができません。献血に賛同してもらえれば、主さんと動物の助けが必要ですが、もし供血ボランティアにご興味があれば、お近くの動物病院にお問い合わせください。ボランティアの登録が増えることで、輸血を必要とする動物の治療の幅が広がることと思います。